

Palja

ぱ る じゃ



2025. 8 No. **197**

特集

令和7年度地区座談会開催



第7回新郷・五戸畜産祭



ドローンによる薬剤散布

Contents

- 求人事業所説明会
- J A共済アンパンマン交通安全キャラバン
- 第7回新郷・五戸畜産祭開催
- 子どもたちの未来に食の安心をつなぐ国消国産 etc.



求人事業所説明会

JA八戸は6月19日に陸上自衛隊八戸駐屯地で退職予定自衛官に対する業種・企業説明会、7月11日に新規高校卒業予定者に向けた求人事業所説明会に参加しました。

総務人事担当者が事業内容、農産物即売会などの地域貢献活動、充実している福利厚生やJA八戸が求める



る職員像などについて説明しました。

参加者は「JAはたくさん
の事業をしているのです
ね。びっくりしました」「希
望した部署への配属は可能
ですか」と話しました。

JA八戸では、オンラインでの事業所説明会を行っています。ぜひ、お気軽にご連絡ください。

令和8年度(2026年度)JA八戸新採用(高卒)職員募集

募集職種 総合職 ・金融・共済・購買部門の推進活動および窓口活動および窓口業務
・組合員の営農活動援助と農業生産力の維持・向上を図る業務

応募資格 (1) 高校を卒業または令和8年3月卒業見込の者で、平成17年4月2日から平成20年4月1日までに誕生した者。
(2) 原則として令和8年3月末までに普通自動車運転免許を取得する見込みの者。

応募締切 令和7年9月12日(金) 必着

採用試験および選考方法

- ①第一次選考 筆記試験(基礎能力試験、適性試験、作文)
- ②第二次選考 面接試験(第一次選考合格者に対して面接試験を行います)

その他 詳細につきましてはJA八戸ホームページをご覧くださいませよう願いたします。



JA八戸
ホームページ

8月号

ぱるじゃもくじ

求人事業所説明会 2

令和8年度(2026年度) 2

JA八戸新採用(高卒)職員募集 2

JA共済 3

アンパンマン交通安全キャラバン 3

特集 4

令和7年度地区座談会開催 6

第7回新郷・五戸畜産祭開催 6

新人職員の職場体験 6

トピックス 7

新郷グリーンセンター移転のお知らせ 9

営農情報 栽培インフォメーション 10

JAカレンダー 12

「家の光」9月号のご紹介 12

活動レポート 13

出資配当金通知書送付のご案内 13

理事会だより 13

JAのすがた 13

東北農政局青森県拠点からのお知らせ 14

クロスワード 14

皆様のお声 15

ローン相談会 15

子どもたちの未来に 16

食の安心をつなぐ国産国産 16

J A共済アンパンマン交通安全キャラバン

J A八戸とJ A共済連青森は7月5日、八戸市南郷文化ホールで午前・午後の2回に分け「J A共済アンパンマン交通安全キャラバン」を開催し、午前の部、午後の部合わせて640人の親子が参加しました。

J A共済は、組合員・地域住民の皆さまが豊かで安心して暮らすことができる地域社会づくりをめざし、さまざまな取り組みを行っています。

『J A共済アンパンマン交通安全全キャラバン』はその一環として、アンパンマンやその仲間たちと一緒に正しい交通マナーやルールを学び、親子で一緒に交通安全について考える時間を提供しています。

子どもたちの大きな掛け声でアンパンマンたちが登場し、会場内はあふれんばかりの大歓声をあげました。子どもたちはアンパンマンたちと一緒に歌やダンスで横断歩道の正しい渡り方や信号機の意味を学びました。



▲ イベントの様子



▲ 歌とダンスを通して交通ルールを学ぶ



▲ 握手会の様子

保護者の方はその様子を写真や動画に収めていました。
会場近くの横断歩道では、子どもたちが早速学んだことをいかし、左右を確認してから、大きく手を挙げて保護者の方と一緒に渡っていました。

令和7年度地区座談会開催

J Aでは、6月13日と16日、全9会場で地区座談会を開催しました。

今回、座談会で以下の6案件について説明しました。

- ① 令和6年度決算報告について
- ② 令和7年度事業計画(案)について
- ③ 第6次中期3力年計画について
- ④ 第6次農業振興計画について
- ⑤ 自己改革の取り組みについて
- ⑥ その他

出されたご意見・ご要望とそれらに対する回答をご紹介します。

(一部抜粋)

1 令和6年度決算報告について

1Q 組合員の脱退が多いが、正組合員か、准組合員か。

1A 正組合員の脱退が多いです。高齢化や離農による理由が多くなっています。

2Q A T Mが無くなり非常に不便を感じている。支店を廃止する時、組合員への約束は不便をかけるという事だった。ふれあい店舗を置く、A T Mを置くといったものが、全部無くなった。

J Aの利用者も結構いる。余計組合員離れになると思う。

2A 支店を廃止してからしばらく経ちますが、A T Mの利用率は一番利用の多い所で月平均約6,000件位です。全体で月平均約2,000件から3,000件位ですが、市川は月平均約600件から700件位と、相当落ちてきています。また、A T Mは雨漏りもあり、改修も考えなければならぬタイミングでもあったのでご理解願いたいです。

3Q 出資配当金について再度説明して欲しい。

3A 出資金額に対して1%の割合で配当いたします。例として30万円の出資金であれば3,000円の配当となりますが、源泉された金額が組合員の出資予約金に振り替えることとなります。

2 令和7年度事業計画(案)について

1Q 昨今のニュースで米農家は肩身の狭い思いをしている。今までもずっと身銭で米を作ってきた状況。ようやく50年ぶりに価格が倍になっても、今まで我慢してきたので、政治家なりに今後も米作りを継続できるように働きかけてほしい。

1A 県下の組合長で農政関係含めて、農業問題を県選出の国会議員へ要請を行いました。また、



昨年の当J A農政対策委員会において、神田潤一先生を講師に意見交換しお話を伺っています。さらに、県内の常勤役員によるJ A協議会の総会がありますが、米問題を話し合い、今年度も早めに対応していこうと考えています。

2Q (株)ぱるじゃサービスの各地スタンドで単価が違うのはなぜか。

2A 三戸と田子のスタンドの価格の違いは、セルフかフルサービスかの違いです。

③ 第6次中期 3カ年計画について

①Q 固定資産の処分についてお聞きしたい。金額を載せないのは何故か。

①A 金額を載せるとその金額では買えない等あるため去年から載せておりません。問い合わせがあれば個々に対応しております。



②Q 無料職業紹介事業の実態はどうなっているのか。

②A 使用者と労働者とのマッチングがなかなかできていません。今後はアプリ等も入れて周知していきます。

④ 第6次 農業振興計画について

①Q 他地区でもやっている、トマトのブランド化は考えているか。

①A 管内各地から集荷して、市場8ヶ所に出荷していますが、品種の統一が難しいです。「青い森から」の登録商標はとっていて、市場には認知されています。

②Q トマトジュース等の加工品などの考えはあるのか。

②A 加工品の話もございいますが、へたをとって入荷など、なかなか条件が合わないのが現状です。

⑤ 自己改革の 取り組みについて

「ご意見・ご要望等」ございませんでした。

⑥ その他

①Q 役員の選任ですが、定数の関係はどのようになっているか。

①A 定数は前回と変わっていません。役員の選任は、地区制です。ので地区で競合になれば地区選挙になりますが、今回、地区選挙はどこもありませんでした。立候補した方が候補者となります。そして、総代会で承認を受けて、理事会で常勤を選任します。

②Q 営農指導員は何人くらいいるか。

②A 28名です。

③Q (株)ばるじゃサービスで灯油の定期配送を利用しているが、配送価格と店頭販売価格が違うのはなぜか。

③A 配送車(ローリー車)の車両費・人件費を考慮しているためです。



たくさんのご意見・ご要望等に組合長はじめ役職員が回答し、理解を求めました。今後も皆様のご意見をJA運営に反映してまいります。

第7回新郷・五戸畜産祭開催

新郷村畜産推進協議会は7月8日、間木ノ平グリーンパーク特設会場で第7回新郷・五戸畜産祭を開きました。JA八戸管内からは生産者11人が黒毛和種34頭をエントリーしました。

JA八戸では、生産者の飼養技術向上を図り「安全・安心」な畜産物の生産を目指すため畜産祭の後援をしています。

審査長を三八農林水産事務所八戸家畜保健衛生所の木村勉副所長が務め、5名で審査を行いました。それぞれの発育、体積、資質などの審査を行いました。月齢、経産別の5部門に分かれ、優等賞を選出しました。

各部門の優等賞の中から新郷村



▲ グランドチャンピオンに輝いた「ぴらふ」

の奥山真さんの「ぴらふ」がグランドチャンピオンに輝きました。審査結果は次の通りです。
(敬称略)

グランドチャンピオン

「ぴらふ」 奥山 真

優等賞

第1部(6カ月以上、14カ月未満) 「れもん」 佐藤 昌 智
第2部(14カ月以上、17カ月未満) 「じゅんこ」 高根 貴 明
第3部(17カ月以上、20カ月未満) 「めい」 豊田 聡
第4部(20カ月以上、24カ月未満) 「つむぎ」 高根 貴 明
第5部(経産のもの) 「ぴらふ」 奥山 真



▲ 賞状を手渡す若林組合長(右)

新人職員の職場体験

JAでは、入組して1年目から4年目の職員を対象に、他部署の業務を体験し部門間連携を深めていくことを目的に、他部署の知識を学んでいく姿を紹介していきます。

7月19日、三戸営農センター

で入組3年目と2年目の職員2人が職場体験として、トマトの選果、箱詰め作業を行いました。それぞれの持ち場に流れてくるトマトを、色や傷の状態に注意して選別、箱詰めを行いました。

感想

●下長支店



小川 文香
(入組3年目)

箱詰めをしながら、シールを貼って段ボール箱を補充しなければならず、マルチタスク力の大切さを体感しました。同時並行で色々な作業をこなす必要があるため、これからも周りを見て仕事していきたいです。

●金融課



工藤 明志乃
(入組2年目)

たまに、傷や実が柔らかいトマトもあったため、トマトの状態をしっかりと確認してから箱詰めするよう工夫しました。段ボール箱に規定の個数がきちんと収まるので爽快感があって、とてもやりがいを感じました。



ながいも 適期追肥、予防散布の徹底を



▲ 説明に耳を傾ける参加者

ながいも専門部は7月3日と4日、管内4ヶ所で栽培講習会を行いました。このうち、4日に五戸町の生産者ほ場で行った講習会では10人が参加しました。

講師に農業普及振興室の木下貴文主幹が務め、夏場の集中豪雨が増加傾向にあることから、排水対策を徹底してほしいとしました。排水対策として、ほ場周縁に額縁明渠の設置、トレンチャーによる捨て穴を設置するなどの事前対策を行うほか、植溝が陥没した場合は埋め戻しなどの事後対策を行うよう呼びかけました。さらに、講師は「追肥が遅れると収量、品質低下

の原因になるので、適期追肥に努めてほしい。また、病害虫は、まん延すると防除が困難になるので、予防散布を徹底してほしい」と説明しました。

さらに、青森県産業技術センター野菜研究所で行った「ながいもの形状に施肥体系が及ぼす影響」の試験結果について説明がありました。追肥の回数に応じて、障害いもの発生が異なることを報告しました。

きゅうり 薬剤散布の徹底を

きゅうり専門部五戸支部は7月24日、五戸営農センター管内2ヶ所で栽培講習会および目揃会を行いました。

講習会では、(株)ときわ研究場の鈴木雅勝さんを講師に招き、北東北の生育状況として、雨が降らない影響から尻細果や曲がり果のきゅうりが多い傾向にあることを報告しました。講師は樹勢を維持するために、摘葉管理、枝の管理、追肥やかん水を行うよう説明しました。また、カメムシによる被害も増加していることから薬剤散布を徹底して行うよう呼びかけました。

目揃会では、石ヶ守進一販売担当が「販売状況として、東北産中心の販売となっており、猛暑の中J A八戸管内は順調な出荷量となっています。参加者の皆さん、規格ごとによく選別されているので、今後も適切な選果選別をお願いします」と話しました。



▲ 管理方法を説明する講師

にんにく目揃会 出荷規格や入庫方法確認



▲ 注意点を説明する販売担当

にんにく専門部五戸支部は7月10日、五戸営農センター(東部)で目揃会を行い、22人が参加しました。

赤穂大樹販売担当がにんにくの販売状況、製品ごとの出荷規格の確認や入庫方法について説明しました。また、農協出荷の有利性を説明し、出荷を呼びかけました。赤穂販売担当は「今年のにんにくは小玉傾向で、春腐病の影響から着色しているものが見られたので、荷造りの際は十分注意してください」と話しました。

農家の労力軽減 ドローンで薬剤散布担当



▲ ながいもの散布の様子

五戸地域航空防除協議会は、個別農家の労力を軽減しようとドローンや無人ヘリコプターを使った航空防除を行っています。五戸町管内の27戸のながいもほ場61ヘクタールおよび田んぼ386ヘクタールを今年度は請け負っています。

7月23日の早朝からながいも散布作業を開始し、葉渋病、ヤマノイモコガ、アブラムシ類に効果のある

薬剤を散布しました。順次水稻の散布を開始します。

管内のながいもおよび水稻の生育は順調で、気温が高めに推移していることから出穂期は平年より10日ほど早まっています。



▲ 水稻の散布の様子(6月の様子)

ピーマン 整枝のポイント学ぶ



ピーマン専門部五戸支部は7月23日、五戸営農センター管内2ヶ所でピーマン栽培講習会を行いました。このうち、新郷村の生産者は場で行った講習会では40人が参加しました。

講師は農業普及振興室の吉田理見技師が務め、「6月以降、高温と乾燥が続いたことで、花落ちや尻腐れ果の発生が目立っていることから、少しでもかん水や葉面散布を行い、草勢の維持に努めてほしい」と話しました。さらに、枝が混みあっているところは、太い枝を残し、風通しを良くし、株元に光が届くように適宜、整枝するのが薬剤の効果高め良品生産のポイントであるとしてしました。また、「カメムシ類が多発しているため、病害虫防除を徹底し、後半の収量、品質確保に努めてほしい」と呼びかけました。

指導員は「高温が続いているため、赤果が発生してくると思われます。積算温度が1,000℃を超えると赤くなると考えられています。日中と夜間の寒暖差があまりないことから、早い段階で赤果が見られると思うため適期収穫をお願いします」と話しました。



▲ 整枝方法を学ぶ参加者

ねぎ 選果しっかりと



▲ あいさつをする堰合支部長

ねぎ専門部八戸支部は7月25日、階上野菜集出荷予冷施設で講習会および目揃会を行い、45人が参加しました。

堰合繁支部長は「目揃会は、皆さんが出荷するねぎの品質を一緒にするためにするために行っています。一人でも悪いと市場への評価につながるので、きちんと確認してほしい」とあいさつしました。

講習会では、盛幸弘営農指導員が講師となり、「いずれ発生が多くなることが予想される病気」と題し、白絹病と黒腐菌核病を取り上げ、管内の発生状況、被害の特徴と対策などについて説明しました。講師は「作物の定植前に菌が発生しにくい土壌環境を整え、定植後は作物が菌に感染する前に薬剤をローテーションし防除することが大事です」と呼びかけました。

目揃会では、J A全農あおもりの苫米地勇誠氏が情勢報告、横浜丸中青果(株)の三戸部良課長が販売状況を報告しました。さらに、三浦義博販売担当は「ねぎが黄色などに変色しているものは軟腐病の可能性があるので箱詰めしないでください。太さや形状など確認し、選果をしっかりと行ってほしい」と話しました。

管内4年生へちゃぐりん寄贈



▲ 松橋校長(左)へ手渡す木村専務(右)

JA 八戸は7月9日、八戸市立下長小学校で『ちゃぐりん』8月号を贈呈しました。木村照男専務が同校を訪れ、松橋祐哉校長先生へ手渡しました。

JA 八戸では、毎年管内の小学4年生を対象に夏休みの自由研究や工作などの学習資材として活用してもらおうと『ちゃぐりん』8月号を寄贈しています。今年は管内の小学校34校に1,024冊を贈りました。

木村専務は「ちゃぐりんは、学校では勉強できない農業についての内容が豊富に掲載されています。ぜひ、活用してください」と述べました。

土壌診断処方箋研修会

営農経済部は7月9日、JA 全農あおもり営農技術課の土岐鈴夏さんを講師に土壌診断の有用性と診断による処方箋の活用方法を学ぶ研修会を開きました。研修には営農指導員、営農経済渉外担当者26人が参加しました。

土壌診断に基づいた施肥指導で高品質な農作物の生産と、適正施肥による農業者の所得増大を目指すため、専門的な知識を向上させ営農指導および商品提案の強化を図ります。

実際に組合員の処方箋を用いて、処方箋の見方や分析項目ごとの用語の意味を学びました。

参加者は「土壌の採取方法や時期は」「緑肥をした土壌はどのような診断になるのか」など質問し知識を身に着けました。

JA 八戸管内では、令和6年には611件、土壌分析を実施しています。



▲ 研修に耳を傾ける職員

新郷グリーンセンター 移転のお知らせ

いつも、新郷グリーンセンターをご利用いただきまして大変ありがとうございます。

五戸営農センター(西部)内へ新郷グリーンセンターが移転しましたことをお知らせいたします。

今後とも変わらぬお付き合いをどうぞよろしくお願いいたします。





野菜



1 ながいも

最終追肥は8月20日頃を目安に済ませましょう。遅い時期の追肥は枯れ上がりの遅れや未熟芋の原因になります。また、前作で病害虫被害の多発したほ場では、例年より早い時期から葉渋病・炭疽病やコガ類が発生していますのでしっかりと防除し蔓延防止に努めましょう。この時期に防除を怠ると周辺のほ場や次作にも悪影響が出ます。

2 にんにく

土壌診断処方箋を参考に土壌改良剤の施用を行ってください。基肥は昨年の施肥量を基準とし、作柄などで施肥量を検討してください。新規ほ場や肥料銘柄の変更を検討している方は、お近くの営農センター担当にお問い合わせください。堆肥などの有機質資材の多量施用は病気の原因となりますので使用量には注意してください。

3 ねぎ …… 今後の管理のポイント ……

『さび病・べと病の対策』

例年お盆過ぎにさび病・べと病が発生します。肥料切れ、多肥にしないように肥培管理に注意しましょう。さび病が発生した場合、『カナメフロアブル/2,000倍』が効果的です。

また、アミスター20Fを使用する際の展着剤はミックスパワーを使用し防除効果を高めましょう。

注意①ミックスパワー2,000倍では薬害の可能性がありますので必ず3,000倍で使用してください。

②以前はアミスターに展着剤を加用しないよう指導した時期がありましたが、今はミックスパワー3,000倍だと防除効果も高まり薬害の心配がないため使用を勧めています。

③さび病防除は薬剤の散布量が重要です。規定の使用量の範囲内で多めに散布しましょう。

ユニフォーム粒剤に頼りすぎないようにし、必ず定期的に薬剤散布を行いましょう。

『害虫の対策』

去年は暑すぎて害虫は少ない年でした。今年も猛暑の予想ですが害虫が少ないとは限りません。

お盆過ぎの気温が落ち着いた時が害虫大発生サインです。

病気の対策に合わせて、必ず予防防除による薬剤散布を行いましょう。

4 ごぼう

気温が高いと害虫の動きが活発になるため、予防防除を徹底するほか、ほ場内やほ場周辺の除草を行い、病害虫防除のためきれいに管理しましょう。豪雨対策として明渠を設置しましょう。

5 トマト

○温度管理と裂果対策

・9～10月の裂果は8～9月の水分不足で多発するため定期的にかん水を行いましょう。
・日中と夜間の温度差が拡大すると同心円状裂果が多くなりますので、日中の外気温が18℃以上の場合は換気を徹底しましょう。

○9月以降の薬剤や葉面散布剤の使用は果実の汚れに注意しましょう。

・果実が直射日光を長く浴びると、果皮に微細な亀裂や点線のコルク症状が発生し、そこに薬液や葉面散布剤が染みこんで汚れが発生します。
・9月以降ハウスを閉めきると、加湿になって特に汚れやすくなりますので注意しましょう。

6 ミニトマト …… 後半の摘葉と摘心方法について ……

【9月以降の摘葉】・夜間ハウスを閉めきる時期までに、下葉を最低60cm摘葉しましょう。

・地上上昇によるハウス内の対流を促し、湿度を下げましょう。

・灰色かび病（ゴーストスポット含む）の発生低減に効果があります。

【摘心の方法】・収穫打ち切り予定日の45～55日を目安に、1回以上トマトトーン処理した花房が、約70%に達したら上の2葉残し、一斉に摘心しましょう。

〈開花日〉

〈最終収穫月旬〉

9月1日

10月上旬

9月5日

10月下旬

9月10日

11月上旬

7 ピーマン …… いつもより早めの収穫を ……

・斑点病、斑点細菌病の発生に注意しましょう。早めに薬剤散布を行う予防防除が大事です。

・猛暑が続く、高温乾燥状態の影響から玉伸びが例年より鈍くなっています。このため、木の樹勢が弱まり赤果が例年より早く発生するおそれがあるので、Mでの収穫（コンテナ出荷を利用すると単価も期待できます）、および整枝作業等による着果負担の軽減に努めましょう。また葉面散布剤等での、追肥を行うようにしましょう。

・タバコガ類・カメムシ類の発生が多いので適時防除をよろしくお願いいたします。

8 きゅうり …… 今後の管理ポイント ……

・老化葉や病葉、遮光を妨げている葉など、風通しを良くするため積極的に摘葉しましょう。

・追肥は5～10日間隔を基本とし、収穫量に合わせて間隔を調整しましょう。

・お盆後の気候に注意し、乾燥が続く場合はアーチ上部は湿度保持のためふさぎ、曇天が続く場合は開けるように枝の整理を行いましょう。

・風通しと薬剤散布の効果を上げるため、下段の枝は早めに整理しましょう。

・虫の発生が多く、病気の発生しやすい気象条件となっていますので、定期的に予防防除を行いましょう。

・乾燥が続くときはかん水と葉面散布を行いましょう。

9 さやいんげん

- ・高温乾燥が続いています。かん水を行い少しでも水分不足による影響を抑えましょう。
- ・乾燥にはバイカルティ(1,000倍)や液体ハイカルック(500倍)等のカルシウム剤が効果的です。
- ・アザミウマやアブラムシ、アズキノメイガ等の害虫防除を徹底しましょう。

10 丸いも

- ・気温の高い日が続く害虫の発生が多くなっています。特にハダニ類による吸汁害は、葉の黄化から始まり、その後落葉する甚大な被害を招きます。ほ場で下葉が黄色くなる症状を確認したら速やかに薬剤散布を行いましょう。
- ・近年、短時間のうちに大量に降る雨の滞水による品質低下が見られます。排水対策を講じ集中豪雨に備えましょう。
- ・高品質の丸いも生産は種づくりから始まります。興味のある方は早めに各営農センターまでご相談ください。

11 豆類(きめさや・スナップ)

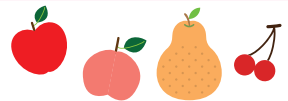
- ・春作の終了ほ場では早めの片付けを心がけ、病虫害発生防除に努めましょう。
- ・秋作の植付け並びに定植をするほ場では、水分確保に努めましょう。
- ・気温上昇に伴い、害虫防除を徹底しましょう。



12 食用菊

- ・高温、干ばつに留意し、水分管理を徹底しましょう。
- ・乾燥によるダニ被害に留意し、防除を徹底しましょう。
- ・こまめな追肥、中耕を心がけましょう。

果 樹



1 りんご

～着色手入れ～

早生品種の着色手入れの時期となってきました。早くからの強い葉摘みは、鮮明な色がつかないばかりか食味の低下につながるので、葉摘みはやや着色が進んだ頃から始めましょう。葉摘みは収穫までに2回程度に分けて行うと良いでしょう。始めは果実に密着している果そう葉を主体に摘み取り、その後、玉回しを兼ねて、光が十分に当たるよう果実周辺の葉を摘み取りしましょう。

～乾燥防止～

- ① 稲わらマルチ：幹を中心に2m四方に16kg(4kg/m²)の稲わらマルチする。
- ② か ん 水：干天日が2週間程度続いたら20mm程度(1㎡当たり20ℓ程度)かん水する。
- ③ 草 刈 り：草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹幹下に敷き草する。

2 プラム

①コンフューザーRを設置していても、晩生種のシンクイムシ類対策を必ず行ってください。

8月下旬	ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍	
	スカウトフロアブル	2,000倍	400ℓ
9月上旬	オーシャイン水和剤	3,000倍	
	モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	400ℓ

②収穫後の黒斑病対策(2回)も徹底しましょう。



3 桃

①川中島白桃の収穫最盛期!!適期収穫に努めましょう!

- ・品質重視するには果実温度が低い朝方(10時頃まで)の収穫がベストです。
- ②収穫が終わったら速やかに追肥(礼肥)と、穿孔細菌病対策の防除を忘れずに行いましょう。
- ・礼肥は標準施肥量の20%が目安です。

4 ゼネラル・レクラーク

①薬剤散布間隔に注意し、輪紋病やシンクイムシ類を徹底防除しましょう。

・ゼネラル・レクラーク基準

8月下旬	菌)オキシラン水和剤	500倍	虫)スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	450ℓ
9月上旬	菌)トップジンM水和剤	1,000倍	虫)スカウトフロアブル	1,500倍	450ℓ

②収穫時期が早まると予想されるため、薬剤選択には注意するとともに、収穫が遅れないように注意しましょう。

花 き



お盆の収穫が終わりましたが、9月は重陽の節句(9月9日)、秋彼岸(9月20日～26日)とイベントが続きます。まだまだ暑い時期ですので水やり、換気、遮光などでハウス内を35℃内に管理の程お願いいたします。今年も虫の発生が多く、被害が多く報告されています。よく観察し適切な薬剤散布をお願いいたします。9月初めは10月下旬咲(季咲)の菊類の花芽分化の時期です。この時期が高温、高日照だと開花が遅れる可能性がありますので、適切な管理をお願いいたします。

1月	16火
2火	17水
3水	18木 ●木曜の市(株)ぱるじゃサービス本社)
4木 ●木曜の市(株)ぱるじゃサービス本社)	19金 ●金曜の市(株)ぱるじゃサービス是川)
5金 ●JA役員と女性部役員との意見交換会(八戸営農センター(中央)) ●金曜の市(株)ぱるじゃサービス是川)	20土 ●ローン相談会(下長支店) ●女性部軽トラ市(上長本店職員駐車場)
6土 ●下長支店(南郷地区)年金友の会つどい(えぼし荘)	21日
7日	22月
8月	23火 ●秋分の日
9火	24水
10水 ●名久井農業高校と連携活動	25木 ●木曜の市(株)ぱるじゃサービス本社)
11木 ●木曜の市(株)ぱるじゃサービス本社)	26金 ●金曜の市(株)ぱるじゃサービス是川)
12金 ●金曜の市(株)ぱるじゃサービス是川)	27土 ●三戸支店(田子地区)地域ふれあい活動
13土 ●階上支店地域ふれあい活動	28日 ●三戸支店地域ふれあい活動
14日	29月 ●定例理事会(営農経済本部)
15月 ●敬老の日	30火



得する・役に立つ・元気が出る「家の光」9月号のご紹介



定価 900円(税込)

ご購入のお申し込みは各支店窓口までどうぞ!!



〈特集〉
老いを
自分らしく
LET IT OI
(老い)

〈別冊付録〉
レンゲを使って
簡単に毎日の健康を
守りましょう!
レンゲで足裏ほぐし

・〈おすすめ学習企画〉新連載
ひと目でわかる! 食と農のいま 第1回
食料自給率の低さが際だつ日本

・農ライフのすすめ

お悩みレスキュー 福田流! 秋冬野菜成功のコツ



定例理事会（7/31開催）

案 件

- 議案第1号 定款一部変更の行政庁認可申請にかかる字句の変更について
議案第2号 理事に対する利益相反取引について
議案第3号 令和5年度米共同計算の本精算について

報告事項

- 第1号 組合員の加入及び脱退等について
第2号 内部監査報告書について
第3号 貸付実行について
第4号 貸付条件変更について
第5号 令和6年度ディスクロージャー誌について
第6号 J Aバンク基本方針に基づく「J A財務モニタリング報告」について
第7号 令和7年度J A八戸「がん共済」実績拡大奨励要項について
第8号 自主検査実施要領の一部変更について
第9号 自己資本比率算出要領の一部変更について
第10号 コンプライアンス・プログラムおよび不祥事未然防止のための行動計画の取り組み状況について
第11号 不祥事未然防止にかかる自主検査の結果について
第12号 ヘルプラインの運営状況について
第13号 反社会的勢力等との取引排除および疑わしい取引にかかる対応状況について
第14号 事務ミス等の発生状況について
第15号 苦情受付について
第16号 情報セキュリティにかかる運用状況について
第17号 余裕金運用状況について
第18号 貸出金残高上位先の概況および貸出残高の内訳について
第19号 理事に対する利益相反取引の状況について
第20号 総代及び組合員地区座談会の開催報告について
第21号 令和7年度J A八戸グループ感謝祭要領について
第22号 第1四半期事業実績及び年度末見通しについて
第23号 第6次中期3カ年計画進捗状況について
第24号 ㈱ばるじゃサービス第1四半期事業実績及び年度末見通しについて
第25号 委員会報告について
第26号 主食用米複数年価格固定契約の取り組みについて
第27号 職員の賞罰について
第28号 人事異動について
第29号 各部の業務報告について
第30号 常勤役員・参事の主要行事出席と行事予定について

J A の す が た
令和7年7月末現在

組 合 員 数	正 9,523人 准 4,732人 計 14,255人
役 員	27人
職 員 (準 職 員 含 む)	290人
出 資 金	34.7億円
貯 金	980億円
貸 出 金	342億円
長期共済保有高	3,164億円
購買品供給高	30.5億円 (令和6年度)
販売品販売高	94.2億円 (令和6年度)



活 動 リ ポ ー ト

Report

女性部 五戸支部五戸地区

PPバンドミニチュアバスケット作り

家の光記事
活用

五戸地区は7月15日、五戸支店でPPバンドミニチュアバスケットを作り、部員22人が参加しました。

ミニチュアバスケットは家の光6月を参考に作りました。部員は底を作るのに苦戦し、何度も型紙に合わせながら交互に編み上げました。

参加した部員は「作るのが大変だったが、完成すると可愛いバスケットができ嬉しい」と話しました。



出資配当金通知書送付の
ご 案 内

平素は、当組合事業をご利用いただき、心より厚くお礼申し上げます。

当組合では、去る令和7年6月26日に開催しました第16回通常総代会の決議に基づき、令和7年3月31日時点で加入いただいております全組合員を対象に出資配当を実施することといたしました。

『令和7年度出資配当について（ご通知）』を令和7年9月初旬ごろに郵送いたしますので、ご確認くださいませよう願いたします。

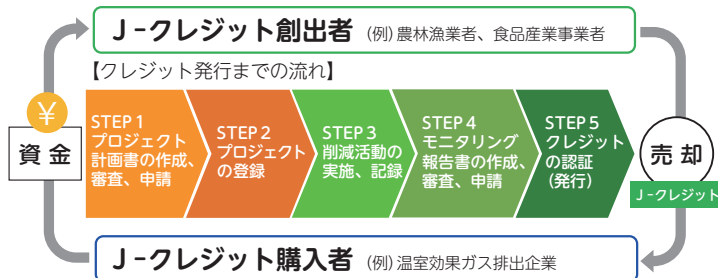
※令和7年6月末日時点の氏名および住所で通知を送付いたします。



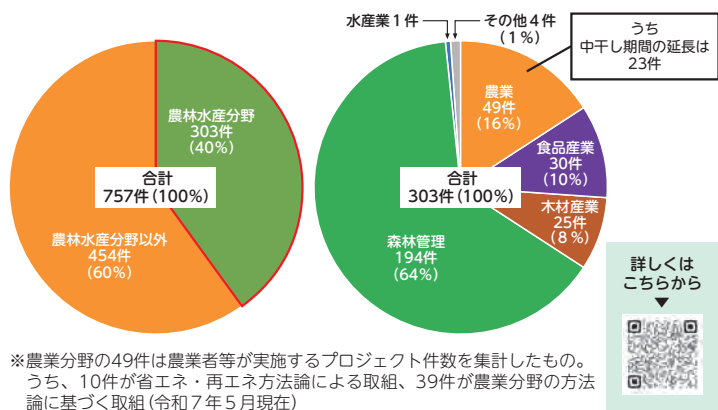
農林水産分野におけるカーボン・クレジットの推進

- 温室効果ガスの排出削減・吸収量をクレジットとして国が認証し、民間資金を呼び込む取引を可能とするJ-クレジット制度は、農林漁業者等が削減・吸収の取組により生じるクレジットを売却することで収入を得ることができることから、農林水産分野での活用が期待されています。
- 農林水産分野のJ-クレジットのプロジェクト登録件数は303件で、農業者が取り組むものは49件。このうち、中干し期間の延長については23件となっています。(令和7年5月現在)

■ J-クレジット制度の仕組み



■ J-クレジットのプロジェクト登録件数



※農林分野の49件は農業者等が実施するプロジェクト件数を集計したもののうち、10件が省エネ・再エネ方法論による取組、39件が農業分野の方法論に基づく取組(令和7年5月現在)

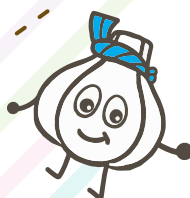
■ 農林漁業者・食品産業事業者等による実施が想定される主な方法論

省エネ	ボイラーの導入
	ヒートポンプの導入
	空調設備の導入
	園芸用施設における炭酸ガス施用システムの導入
再エネ	バイオマス固形燃料(木質バイオマス)による化石燃料又は系統電力の代替
	太陽光発電設備の導入
農業	牛・豚・ブロイラーへのアミノ酸バランス改善飼料の給餌
	家畜排せつ物管理方法の変更
	茶園土壌への硝化抑制剤入り化学肥料又は石灰窒素を含む複合肥料の施肥
	バイオ炭の農地施用
	水稻栽培における中干し期間の延長
	肉用牛へのバイパスアミノ酸の給餌
森林	森林経営活動
	再造林活動

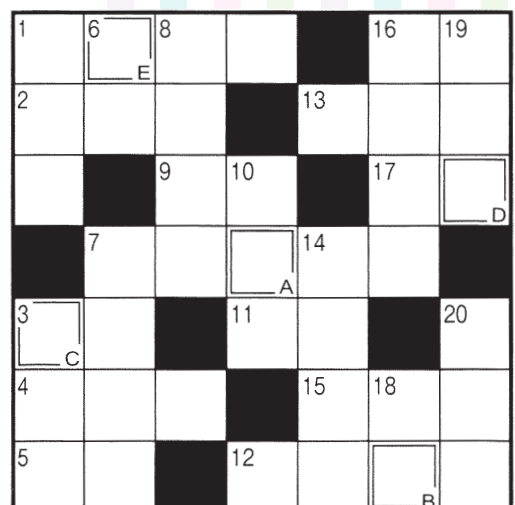
連絡先 東北農政局青森県拠点地方参事官室 TEL : 017-775-2151

頭の体操

クロスワード



クロスワードを解いて、A→Eの二重ワクの文字を順に並べてできた言葉が答えです。



↓ タテのカギ

- 車窓を流れていきます
- おしゃべりではありません
- アルファベットの5番目
- 9月1日は——大震災の起きた日。現在は防災の日になっています
- あばら骨ともいいます
- 塗装していない、——のカウンター
- 数え年99歳のお祝いです
- ホッキョクグマの別名
- 終わったら秋になります
- 祭りの——で焼きそばを買った
- 十五夜に供える月見——

→ ヨコのカギ

- 9月の第3月曜日は——の日。国民の祝日です
- 敷布団にかけます
- ツナやビールを詰めます
- 仕入価格のこと
- 空振りしたらバットが切るもの
- 高知市の景勝地。坂本龍馬像があります
- 重い——を上げて出かけた
- ダリアやコスモスはこの植物の仲間
- 文は主語、——、目的語などからできています
- 鶏卵の重量の60%を占めます
- 兄が一人いる男性
- しめ縄から下げる白い紙。「垂」「四手」と書きます
- なくて七——

(出題) ニコリ

▶ 南部町福田 (Oさん)

暑い暑い毎日が続きます。雨も降らないし、農家は外で自然を相手の仕事です。みなさん体に気を付けて頑張りましょう。

▶ 八戸市田面木 (Nさん)

家庭菜園で、ミニトマト、きゅうりを育てています。栽培インフォメーションのアドバイスがとても参考になりました。

皆様の声

皆様からいただいた
ご意見・ご感想を
ご紹介いたします

訂正とお詫び

広報誌7月号p7「J A八戸グループ役員紹介」において、誤りがございましたので、次のように訂正してお詫び申し上げます。

(誤) 監事 新井田 文雄 (田子地区)
↓
(正) 監事 新井田 文雄 (三戸地区)

編集後記

8月17日は八戸市で花火大会です。幼いころは、祖母の家で花火を見た後、手持ち花火をすることが楽しみだった記憶があります。皆さんは花火といえばどんな思い出がありますか。㊟

▶ 南部町苫米地 (Nさん)

軽トラ市の記事で、部員さんが八戸こども宅食「おすそわけ便」に野菜を無償提供したと知りました。すばらしい活動ですね。

訃報のお知らせ

当J A、米穀畜産課副調査役高坂博樹は令和7年7月14日に逝去いたしました。(享年53歳)



ここに生前のご厚誼に感謝いたしますとともに、謹んでお知らせ申し上げます。

農家組合員以外の方でも是非ご相談ください!!

ローン相談会

平日はお忙しいお客様と土曜日にご相談させていただきます。ご予約のない方もお気軽にご来場くださいませ。

開催日 令和7年 9月20日 土

時間 午前9時～正午

■ローン相談会のお問い合わせはこちらまで
〈下長支店〉TEL: 0178-20-1391

住 所: 八戸市大字河原本字河原本後10

「J Aとのお取引はこれから」というお客様もお気軽にどうぞ!!

会場ご案内図



7月号の当選者 おめでとうございます

賞品の発送をもって当選発表とさせていただきます。

7月号のクロスワードの答え



クロスワードの答えの応募方法

ハガキに「クロスワードの答え」と「J Aや本誌に対するご意見・ご感想」をご記入の上、どしどしご応募ください。

正解者の中から抽選でグリーンセンター・J A農産物直売所・(株)ぱるじゃサービス各給油所・Aコープ店で利用できる商品券1,000円分を5名様に差し上げます。

郵便はがき
85 039-1101
青森県八戸市大字
尻内町字内矢沢2番地5
J A 八戸
総務課行

● 答え
● 郵便番号
● 住所
● 氏名・年齢
● 電話番号
● 本誌へのご意見・ご感想
なんでもOKです。

しめ切り

9月15日の
消印まで有効

※2024年10月1日からハガキの郵便料金が85円に変更となりました。不足の場合はお手数でも切手を貼って投函していただきますようお願いいたします。

※ご応募いただいた皆様の個人情報は、「皆様のお声」コーナーでのご紹介及び、クイズ当選者への賞品発送にのみ、使用させていただきます。

※ご意見・ご感想が記載されていないハガキは抽選の対象から省かせていただきますので、ご了承ください。

子どもたちの未来に 食の安心をつなぐ



私たちの **国** で **消** 費する食べものは、できるだけこの **国** で **生** 産する

その考え方を **国消国産** といいます。



JAグループサポーター
林 修

日本は今、食料の
約**6**割を輸入に
頼っています。



もしも輸入が難しくなると、
必要な食べものが足りなくなつたら…農畜産物は、足りなくなつたからといって、すぐに生産を拡大することはできません。だから、日ごろから「国消国産」を進めることが、とても大事。「国産」をもっと食べましょう。

国産 を食べると、**いいこと** いっぱい！

自給力アップで、
いざというとき安心！

日本の農業を
食べて応援できる！

おいしくて安全・安心な
食事を實現！

輸送で出るCO₂を
減らし、SDGsに貢献！

国消国産 が日本の食の未来をつくります。

国消国産 で、日本の「食」に安心を！ 日本の「食」は、どうなる？

私たちの食べものは、自然の力を活かし、多くの時間をかけて作られています。足りなくなつたからといって、すぐに作ることはできません。でも、日本の「食」は今、多くのリスクを抱えています。

食料の多くを**輸入に**
頼る日本。輸入がもし
止まったら、**どうなる？**

日本の「食」が直面している
「5つのリスク」

世界や日本で**自然災害**
が増加。農業が受ける
ダメージは、**どうなる？**

農家と農地が**減っている**。
私たちの食べものは、**どうなる？**

約120万人 2022年 基幹的農業従事者数 約30万人 約20年後

※ 農水省による推計（「農業構造動態調査」より）

増え続ける世界の人口と食料需要。
輸入に頼る日本は、**どうなる？**

80億人 2022年 97億人 2050年

※ 国連広報センターによる推計

高止まりする肥料・家畜のエサ・燃料。
農家の経営は、**どうなる？**

エサ	139.5
肥料	134.1
燃料	129.7

高騰する生産資材 2020年を100とする

※ 農水省令和6年5月農業物価統計調査

どれも大きなリスクですが、私たちにも
できることがあります。

日々の食卓に「国産」を取り入れる。それが日本の農業を応援し、
「食」を未来につないでいくことになります。



耕そう、大地と地域の未来。JAグループ